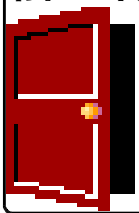


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No.71

桑村小学校令和6年1月9日 文責 渡邊

社会がどんなに発達しても、自分で感じ、考えることが大切!!

令和6年がスタートしました。今年もどうかよろしくお祈りします。

さて、令和6年初めの『読書活動への扉を開く』では、静岡県公立高校の校長で前に静岡県総合教育センターの所長を務められた杉本氏の文章（『教育新聞』令和5年11月30日に掲載）の一部を紹介いたします。

将棋の杉本昌隆八段は、藤井聡太八冠の指導について、「教えすぎると思考する力が育たないので教えすぎない」「AIはすぐに答えを教えるのでAIを使うのは中1まで我慢させた」、さらに「時間短縮に役立つAIを使っても、学び直しというあえて時間のかかる昔ながらの勉強をするのが藤井八冠の勉強法で、そこに成長のヒントがあるのではないかと話しています。つまり、AIに教わるのではなく、AIを使って自分で考えることが基本であるということです。これらは教育活動にも大いに通じる場所があり、AI（ICT）を使おうとアナログで指導しようと、楽をせず「自分で考えて、行動する場面」を作ることによって前頭葉は育ち、人は成長するということです。（以下略）

令和5年度の本校の重点目標「自ら感じ 考え 行動する子」は、まさしく杉本氏が大切にしようとしているところと一致しているように思われます。

五感を働かせ感じ、考える場を設定する取組は、令和6年も継続していきたいものです。豊かな自然を活用した体験活動である「原生林探検」、「お茶摘み体験」、「野菜づくり」等は本校ならではの学習で、子供たちの感性を育む上で大切にしていきたいものです。こうした直接体験からこそ子供たちは様々な問いを生み出すことができるのでしょう。

また、併せて、読書体験も大切にしていきます。読書から獲得する感性も子供たちにはとても必要なものです。これについては、学校と家庭との連携が求められます。現在、なかなか読書を楽しむ時間を見出すことが難しくなっています。そこで、本校では、「親子読書の会」を月に一度開催しています。今後は、1月18日（木）と2月22日（木）に開催予定です。是非、親子で読書を楽しんでみませんか？多くの方々の参加をお待ちしています。



【原生林体験より】



【校長の「読書講座」より】



【親子読書の会①】



【親子読書の会②】



【親子読書の会③】



【親子読書の会④】